

## ミカン収穫時期 手袋で一発

三重県中央農業改良普及センターと手袋メーカーの「三重化学工業」(同県松阪市)が、ミカンや柿の成熟度を見分ける色見本が付いた手袋を開発した。産地ごとに品質をそろえて出荷し、市場価値を高めるねらいで、県と共同で特許を出願している。

手袋は、ミカンの「極早生」「早生」用と、柿用の計3種類。それぞれの親指の付け根に、3パターンの色見本を張り付けた。

同センターによると、県内のミカンと柿の多くは共同で出荷。果物の色合いは秋の冷え込みによって変わるため、毎年、どの色に合わせて出荷するかを、それぞれ農家が決めてきた。

今回、色の見本にしたのは、1975年に旧農林省果樹試験場が作ったカラーチャート板。ベテラン農家はチャート板の微妙な色合いを見分けるが、収穫期は多くのアルバイトを雇うため、初心者には見分けが難しいという。

チャート板はミカン用が14色、柿用は12色を例示しているが、ミカン用は全国の産地で使えて、柿は主に東海地方で多い「次郎柿」の色合いを選んだ。



㊦収穫風景㊧開発された手袋(柿用)とカラーチャート板=いずれも三重県中央農業改良普及センター提供

三重のメーカーなど開発

チャート板の色は、東海地方の印刷会社では見つからず、中国にある三重化学工業の協力工場や印刷会社と開発を進めた。チャート板とほぼ同じ明るさや鮮やかさを出すまでに約8カ月かかったという。また、柑橘(かんきつ)類の成分で溶けたり朝露で滑ったりしないよう、素材も工夫した。

三重化学工業の山川覚社長(61)は「我々のような中小企業は、新しい『すき間市場』を開拓してトップシェアを取ることが大切だ」と話す。1組480円。問い合わせ先は三重化学工業(0598・51・2361)。(高木文子)